

③主要蛸集魚の動向
 蛸集魚全体では前述したように音響給餌ブイ設置後の時間が経過とともに増加傾向が認められたが、ここでは主要魚種毎に蛸集状況の経過をみることにする。

●ハマフエフキ

ハマフエフキは音響給餌ブイ設置後6カ月の調査で100尾単位の群が確認されており、水中監視カメラの調査が始まった当初も100尾以上の群が頻繁に出現した。しかし、時間の経過とともに数多く出現する頻度は減少し、設置後1年半を経過した平成3年6月頃からは40~50尾の出現に留まった。なお、音響給餌ブイ周辺に出現したハマフエフキは図-14に示す漁獲物の体長組成から3才魚以上⁵⁾でそれ以下のサイズは天然魚では出現しなかった。

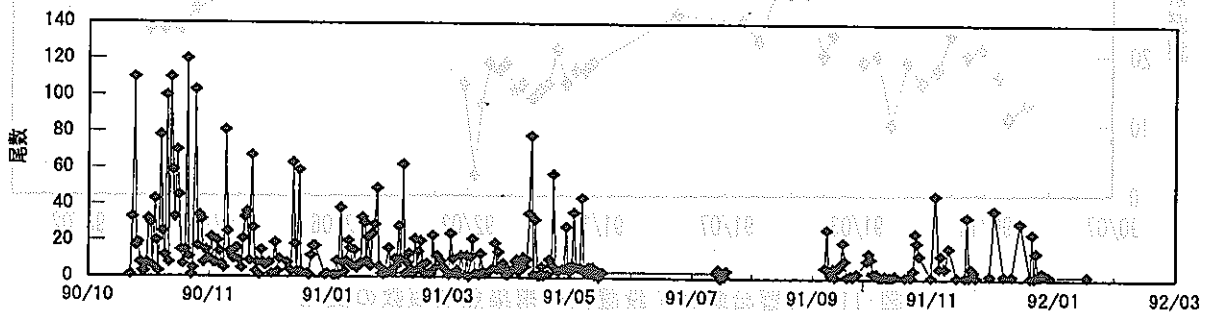


図-13 水中監視カメラ調査によるハマフエフキ

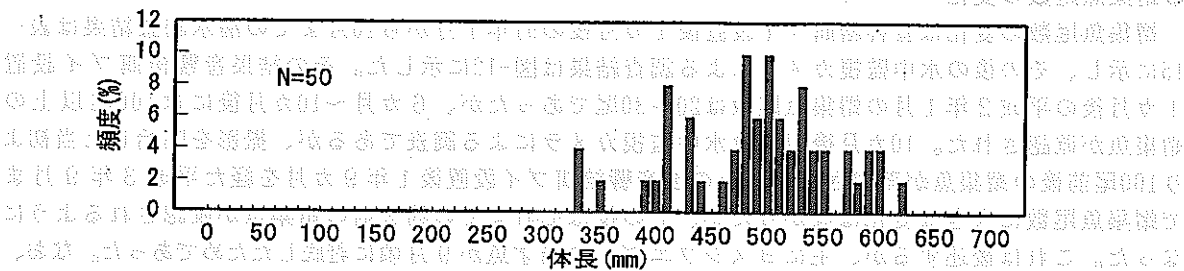


図-14 音響給餌ブイ周辺で漁獲したハマフエフキの体長組成

●ヨスジフエダイ

ヨスジフエダイは音響給餌ブイ設置後1年10カ月の平成2年10月の潜水調査で100尾以上が確認され、この頃開始した水中監視カメラの調査でも常に数十尾が滞留しているのが確認できた。その後平成3年9月頃まで確認出来る尾数に大きな変化なく推移し、ヨスジフエダイが音響給餌ブイ直下で移動せず定着しているのが確認された。ところが、平成3年9月になると尾数が、それまでの倍以上に増加した。これは図-14、15に示したようにヨスジフエダイの幼稚魚の減少とヨスジフエダイの増加が一致していることから当才魚の加入によるものと考えられた。ヨスジフエダイの幼稚魚は当初はそれとは分らなかったが、平成3年3月頃から水中監視カメラで撮影されるようになった無数の稚仔を連続的に観察したところ9月頃にはこれがヨスジフエダイと判断できるサイズにまで成長したため、この稚仔がヨスジフエダイであることが判明した。図-15に示すヨスジフエダイ幼稚魚の最大値は500尾となっているが、実際は無数に出現したが、ここでは便宜上500尾として図を作成した。当才魚が加入した後尾数は大きな変化はなく当才魚も着底後には定着した。このことは図-17に示した、この時期のヨスジフエダイの体長組成をみても10月に当才魚が加入し、定着、成長しているのが分かる。なお、平成4年以降も同時期に当才魚の着底は確認されている。また、同時期に他魚種(メイチダイ類、ハタ類)でも数は少ないが当才魚と思われるサイズのものが出現し、その後も定着するものも確認できた。

このように当海域はこれら魚類の幼稚仔着底場、幼魚の生息域となっていることが予想され当施設がこれら魚種の着底礁、保護礁の役割を果たしたともいえる。

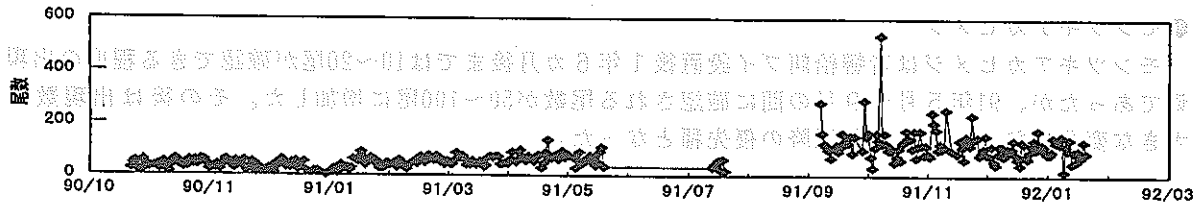


図-15 水中監視カメラ調査によるヨスジフェダイの蛸集尾数の変化

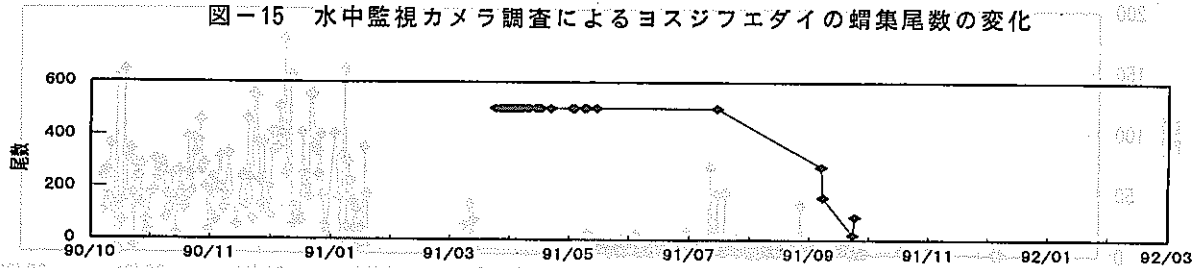


図-16 水中監視カメラ調査によるヨスジフェダイ（幼稚魚）の蛸集尾数の変化

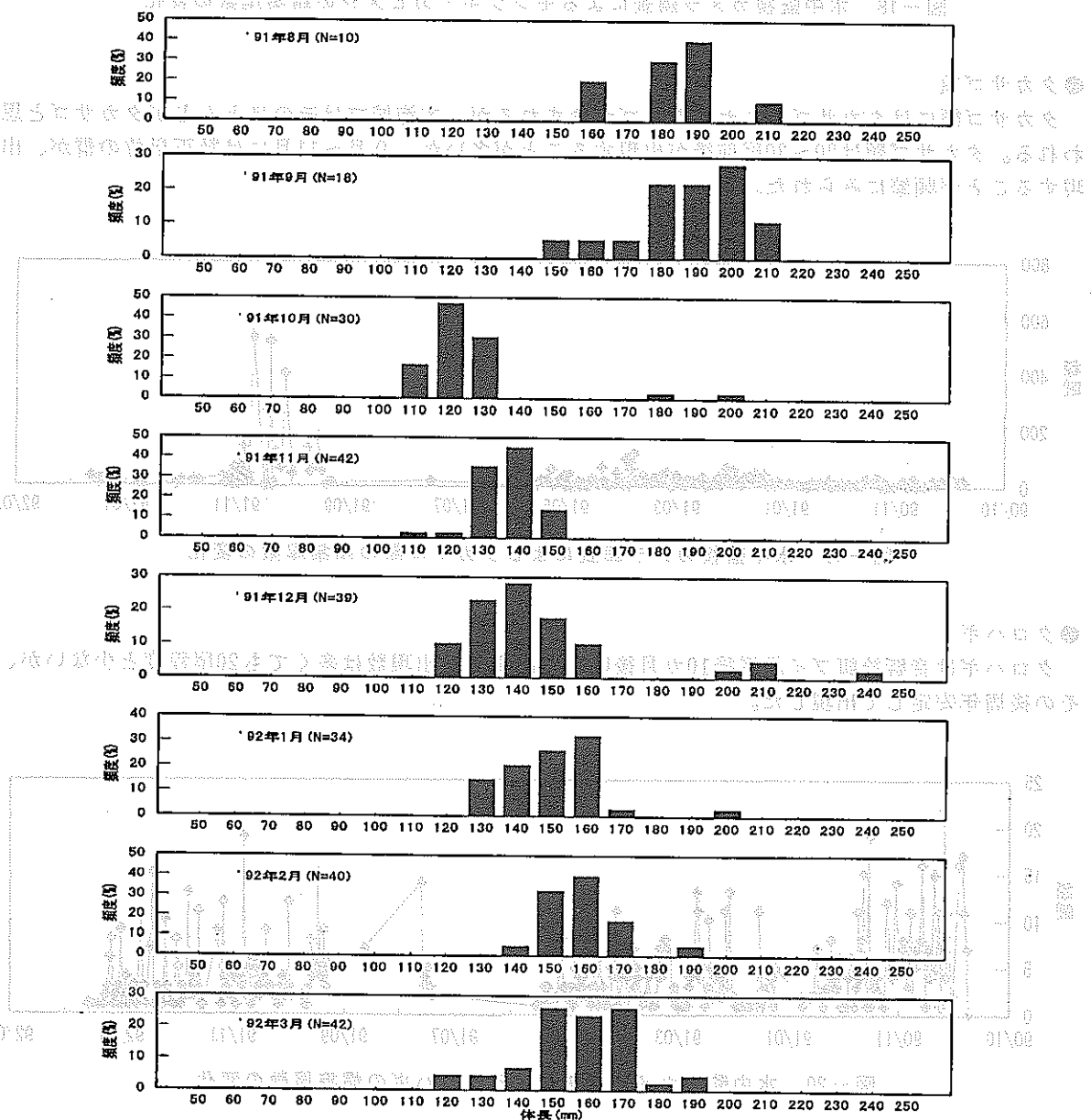


図-17 音響給餌バイ蛸集したヨスジフェダイの体長組成 ('91/8 ~ '92/3)

●モンツキアカヒメジ

モンツキアカヒメジは音響給餌ブイ設置後1年6カ月後までは10~20尾が確認できる程度の出現量であったが、91年5月~9月の間に確認される尾数が50~100尾に増加した。その後は出現数に大きな変化はなく、91年9月以降の優先種となった。

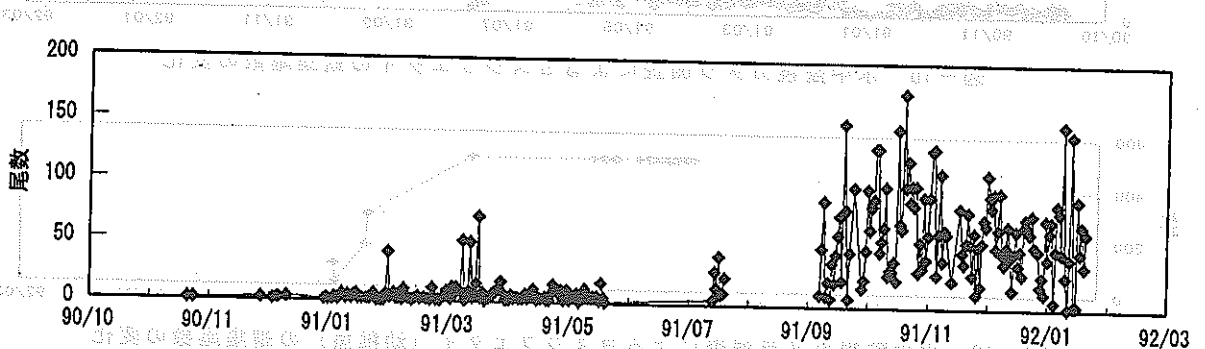


図-18 水中監視カメラ調査によるモンツキアカヒメジの蛸集尾数の変化

●タカサゴ類

タカサゴ類にはタカサゴとニセタカサゴが含まれるが、本海域ではそのほとんどがタカサゴと思われる。タカサゴ類は20~30尾前後が出現することが多いが、9月~11月には数百単位の群が、出現することが頻繁にみられた。

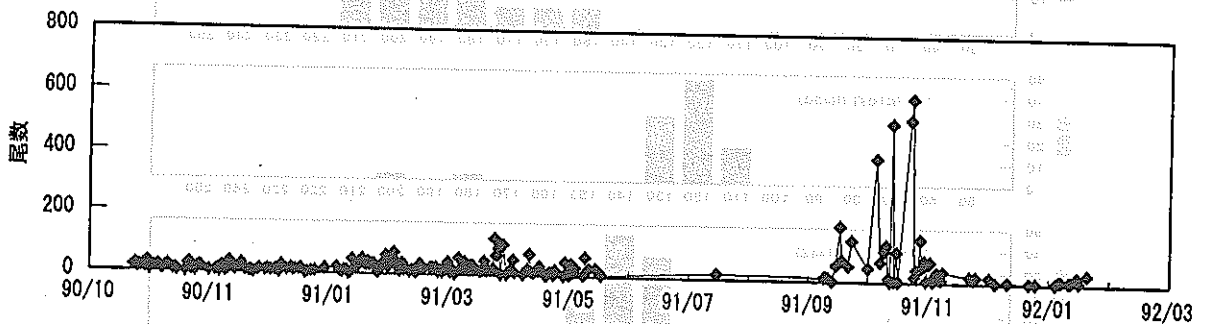


図-19 水中監視カメラ調査によるタカサゴ類の蛸集尾数の変化

●クロハギ

クロハギは音響給餌ブイ設置後10カ月後頃から出現し、出現数は多くても20尾程度と少ないが、その後周年安定して出現した。

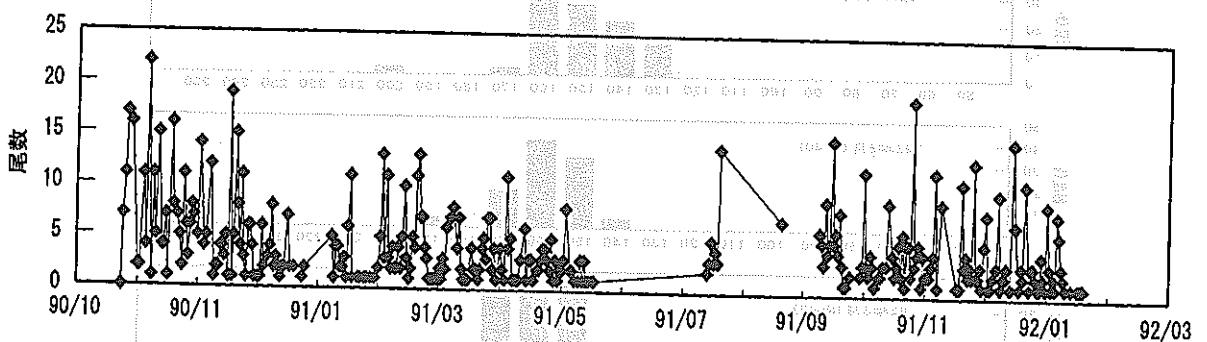


図-20 水中監視カメラ調査によるクロハギの蛸集尾数の変化

(91.50~8.10) 蛸集尾数のトモエでタカサゴ、クロハギ、モンツキアカヒメジ

●ハタタテダイ類

ハタタテダイ類にはハタタテダイとムレハタタテダイが含まれるが、ここではムレハタタテが多かった。ハタタテダイ類は音響給餌ブイ設置当初から50尾程の群が普通にみられ水中監視カメラ設置後も常時出現した。

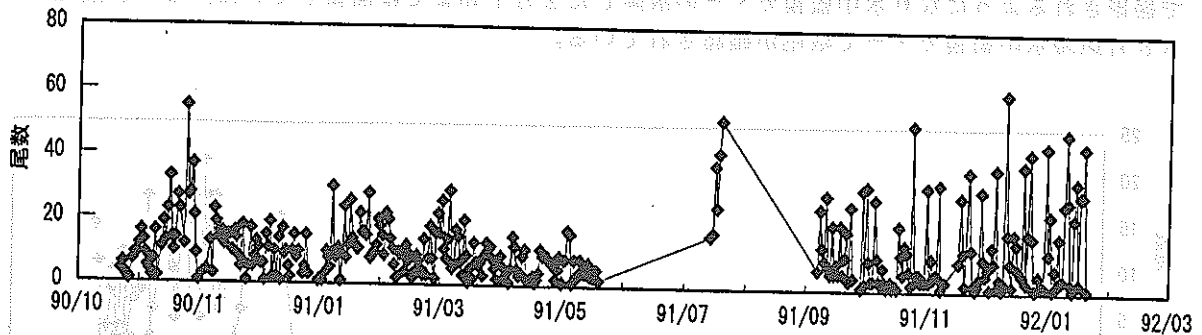


図-21 水中監視カメラ調査によるハタタテダイ類の蜻集尾数の変化

●スズメダイ類

スズメダイ類には数種類混じって出現したが主体はミツボシクロスズメダイ、フタスジリュウキユウスズメであった。スズメダイ類は音響給餌ブイ設置後1年6カ月頃まではそれほど出現数に変化はみられなかったが、その後増加して91年9月には100尾前後が常時確認されるようになった。

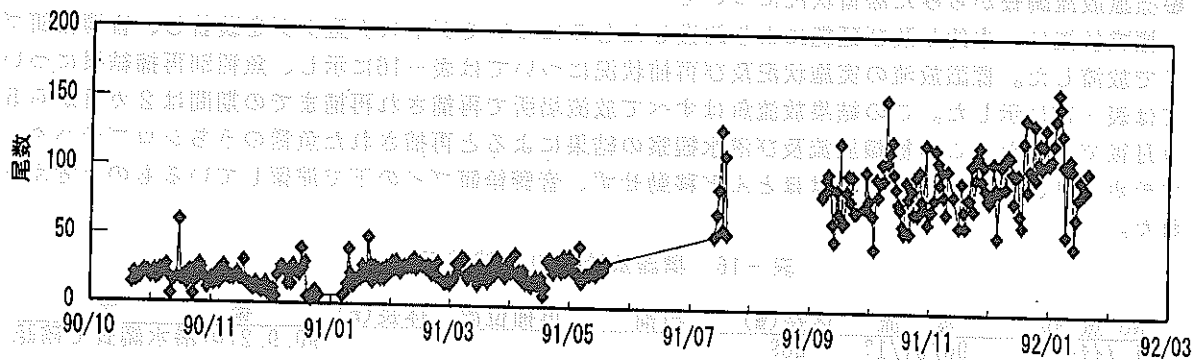


図-22 水中監視カメラ調査によるスズメダイ類の蜻集尾数の変化

●メイチダイ類

メイチダイ類にはシロダイ、サザナミダイ、メイチダイ、オナガメイチ等が含まれるが、ここではメイチダイが主体と思われた。メイチダイ類は出現数は少ないが常時出現しており、夏季には出現数が若干増加する傾向がみられた。また、出現サイズは季節により異なっているようで秋期には当才魚と思われるサイズものが多かった。

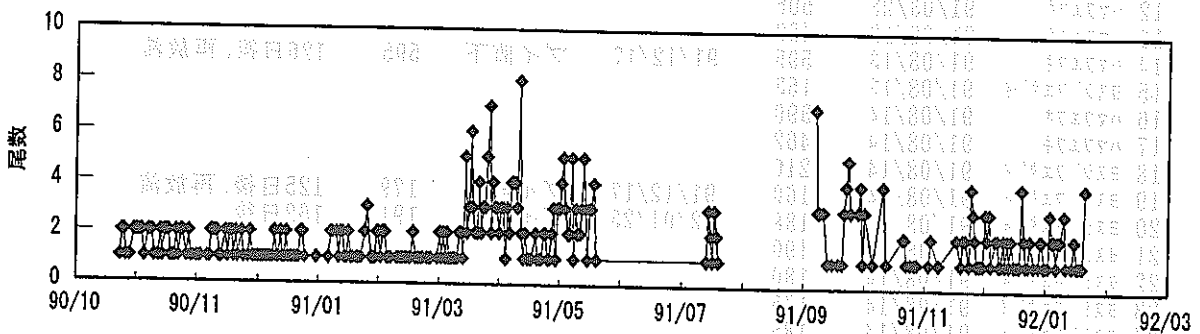


図-23 水中監視カメラ調査によるメイチダイ類の蜻集尾数の変化